

学校概要

創立 42 周年	学校長 長尾 晴美	副校長 藤本 尚子	学期 2 学期制	児童・生徒数 545 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 3		主な関係校: みたけ台中学校 鉄小学校		

学校教育目標

健やかな心と体 夢に向かって地域と学ぶ みたけの子
 【知】学習の基盤的能力を身につけ、夢や目標に向けて努力を続ける子を育てます。
 【徳】友達のよさを認め合い、かけがえのない存在として尊重し行動できる子を育てます。
 【体】自分や他者の生命を尊び、自らも健康な心と体をつくらうとする子を育てます。
 【公】体験・交流活動を通して、地域とかかわり貢献しようとする子を育てます。
 【開】広く社会や世界を見渡し、様々な人と進んで交流し、多様性を尊重する子を育てます。

学校の特徴

- 地域が協力的で田んぼでの米作りをはじめ、総合的な学習や生活科の材に恵まれている。
- 異学年交流を児童の人間関係づくりに位置づけ、ペア学年を基本にしたたてわり活動が盛んである。
- 学校行事、学年行事に熱心に取り組んでいる。
- 学区にある児童養護施設と細やかな連携を図っていく。
- 創立40周年を過ぎ、学校と地域とのつながりを更に充実させていく。

学校経営中期取組目標

○「プラス思考」「チームワークとコミュニケーション」を大切にし、子どもが安心して豊かに生活できる学校にします。
 ・一人ひとりが課題を見つけ、主体的に活動できるような授業づくり、体験学習を実践し、伝え合う力、問題解決の力を向上させます。
 ・自尊感情を育む環境づくり、居場所づくりを推進し、児童の規範意識、人権尊重の意識の向上を図ります。
 ・健康な心と体をつくるための生活習慣を意識できるようにします。
 ・教職員自ら児童、保護者、地域との信頼関係を築き、人とかかわり、地域とかかわりを大切にする学校にします。

小中一貫教育の取組

みたけ台中	ブロック	: みたけ台中 鉄小
9年間で育てる子ども像	○人とかかわりの中でよさを認め合い、目標に向けて主体的に努力する子ども	
自校の具体的取組	・小中相互の授業参観、各教科・領域での研修会、教育課程の報告会を通して、指導計画・指導方法・評価等の改善を図り、小中一貫教育の運用、改善に生かす。学力・学習状況調査の結果分析をブロックで行い、「9年間で育てる子ども像」の見直しを行う。・オーブンスクールでの部活動体験、中学生生徒会の小学校訪問等を通して児童生徒の交流を深め、中学校生活への見通しがもてるようにする。・小中一貫型カウンセラーの配置による情報の共有、児童生徒理解を推進する。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の定着、学んだ事を活用して課題を解決する力、思考・判断・表現力、主体的に取り組む態度を育成する。身につけた力を明確にした学習指導を推進する。	①学年で協働しながら、学習方法や内容、評価基準を明確にし、個に応じた指導の工夫をする。②授業研究のテーマを「やってみたい、考えたい、伝えたい」に設定し、一人ひとりの実感を図り、学習意欲の向上を目指す。③学力向上アクションプランに基づき、児童の実態をつかみ授業改善に努めていく。
豊かな心	人とかかわりを通し、自己肯定感、自尊感情の育成を図る。児童の主体的な活動を大切にし、児童一人一人が所属感をもてるようにする。	①行事、体験学習の機会を通し、自分や友達のよさに気付き、視野を広げ、主体的に課題を解決できるようにする。②年間を通して全クラスが一回以上道徳の授業公開をし、児童が自己を振り返り、多面的多角的な見方考え方ができるようにする。③たてわり異学年交流、人権・福祉の取組を通し、人権を尊重する心を育成する。
健やかな体	健康に関する意識を高め、運動に親しみ、自他の命を大切に、教育活動全体を通して健やかな体をつくり、よりよい生活習慣づくりへの意識を高める。	①体力運動能力調査の結果分析による児童の実態に基づき、家庭地域と連携して「体育健康プラン」を策定し、取り組む。②体力向上一校一実践運動の推進を図り、運動に継続的に親しめるようにする。③学校保健委員会や日常の学校生活の中での取組を通し、健康安全に関する意識の向上を図る。
児童指導	児童の温かい人間関係づくり、安心できる居場所づくりに向けて、未然防止を第一にし、組織的に児童理解、児童指導を推進する。	①生活目標「気持ちよいあいさつあたたかい言葉」を教職員が積極的に推進し、生活アンケートの実施や教育相談、あのね週間を通して課題の未然防止、関係づくりに生かす。②みたけ台小児童指導ハンドブックをもとに、指導の共通理解を図るとともに、保護者と連携、協力しながら安心安全な学校にする。③児童支援専任を中核としながら組織的に情報共有対応ができるようにする。
特別支援教育	校内委員会を設置し、特別支援教育推進のための校内支援体制を整え、関係機関との連携を図る。	①特別支援教育推進の意図や目的の理解を推進し、教室環境、学習環境の整備をする。②合理的な配慮について理解を深め、個に応じた支援に向けて個別的教育支援計画の作成と活用を図る。③個別支援学級の理解と共生に向けて、一般学級児童との交流を推進する。
地域連携	地域の中の学校という意識のもと、地域のひとと児童とのつながりを大切にする。	①児童や教職員が地域の行事に積極的に関わることで、地域理解を深める。②地域コーディネーターの協力を得ながら、「みたけ夢教育応援団」「地域協力者」とのつながりを深め、活動の充実を図る。③学校づくり懇話会や29年度発足の見守り支援隊の活動を推進し、地域の中の学校という意識を持てるようにする。
いじめへの対応	児童一人ひとりへの適切な支援を図ると共に組織的な情報共有や対応に努める。保護者とのコミュニケーションの機会を通し、信頼関係を築く。	①いじめの未然防止、早期発見に向けて、学校いじめ防止基本方針に基づいた組織的な情報共有、対応を行い、関係機関との連携を図る。②児童理解、いじめ防止に関する研修を定期的に実施する。

人材育成・組織運営	研修を年間計画に位置づけ、教職員の専門性、指導力の向上に努める。全教職員が組織的に学校運営に参画する。	①教職員のキャリアステージ毎の取り組み目標を明確にし、指導力や危機管理能力など専門性の向上に努める。②校内メンターチーム研修の充実、主幹教諭をはじめとした経験者層のメンターチームへの参画を推進し、若手教職員が児童理解、実践力を身につけられるようにする。③児童と向き合う時間を確保するために、教職員の働き方について業務の適正化を組織で推進する。
担当	教務	